

## 2. 金沢 21 世紀美術館

説明者 金沢 21 世紀美術館 総務課課長補佐 村田昌人氏


### (1) 金沢21世紀美術館の概要について

- この美術館のある場所は、21 年前までは、金沢大学の附属小中学校が建っていた。近くに金沢市役所があり、その向かいに昔は石川県庁が、さらに金沢城址に金沢大学があった。
- 20数年前に、この金沢大学、附属小中学校、石川県庁が手狭になったということで、郊外に移転する話が出た。そのときに、ここは金沢市の中心部なので、一度に移転すると中心市街地の空洞化が起きることが懸念された。
- そこで、1995年5月に県と市が共同で、都心地区整備構想検討委員会を設け、その中で、県庁跡地と大学跡地は石川県で、附属小中学校跡地については金沢市で整備するという提言がなされた。

- 提言の中で、この周辺については、県立美術館・博物館・小さな美術館等の文化施設が非常に多い場所のため、文化的複合施設を建設・整備してはどうかという話があった。前田利家公が金沢城に入城後、歴代領主は学術や文化を大切にしてきたこと

### 4つのミッション

- 世界の「現在(いま)」とともに生きる美術館
- まちに活き、市民とつくる、参画交流型の美術館
- 地域の伝統を未来につなげ、世界に開く美術館
- 子どもたちとともに、成長する美術館



21<sup>st</sup> Century  
Museum of  
Contemporary  
Art, Kanazawa  
13

資料1 4つのミッション(金沢 21 世紀美術館資料)

から、市民には、

文化等についてとても受け入れやすい土壌がある。1996年4月に市の事務局に「美術館建設準備事務局」が設置され、有識者を交えた「美術館等構想懇話会」を立ち上げた。その中の議論で、現在に座標軸を置いた方向性がなされ、現代美術館の建設に舵を取った。

- 2002年4月に着工、2004年10月にオープンし、今年で11年目になる。建設にあたっては、総建設費が用地取得等を含め、200億円ほどかかった。

- この美術館を開館した2004年の来館者数は半年で約68万人、2005～2007年ぐ  
らいまでは約130万人、2008～2013年までは約150万人、2014年度は約176万人と  
なった。2014年度は、開館以来最高の来館者数と思っていたが、今年の3月に  
北陸新幹線が開業してからは、10月末時点で176万人の3割増しのペースで来館  
者が増えている。
- もともと土日は来館者が多かったが、土日を前年と比較するとだいたい15～  
20%の割合で来館者が増えていて、平日の来館者も非常に増えている。平日は、  
この美術館は月曜日が休みなので、休み明けの火曜日の来館者がとても多い。  
今年は、来館者数が200万人を超えると予想している。
- この美術館の特徴として、丸い建物で入り口が4カ所あり「表」と「裏」がない  
ことがある。構造は、地下1階と1階の2層になっている。地下1階には、貸  
施設の「シアター21」、一般の方に貸し出す「市民ギャラリー」、隠れた部分  
にバックヤード、控え室、美術品の収蔵庫がある。1階には、美術館主催で有  
料の展覧会をする場所もある。
- 有料展覧会は、火曜日～日曜日の10:00～18:00まで開館している。ただし、  
ここが金沢市の中心地にあり、お客様も多いことから、金曜日と土曜日は、20:  
00まで開けている。
- 1階には、交流ゾーン・無料ゾーンもある。ここは、9:00～22:00まで開館  
していて、お休みは12月29日～1月1日までの4日間のみとなっている。この  
ゾーンの中にも、「マイケル・リン」「ジェームズ・タレル」の恒久展示作品  
があるので、市民の方がぶらっと来て、鑑賞できるようになっている。
- また、美術館の周りの芝生には、「フローリアン・クラール」が作成した《ア  
ーナのためのクランクフェルト・ナンバー3.》がある。これは、糸電話的な考  
え方で、一つで話すとどこかの口で話ができるというもので、ここに子どもが  
来るとたいてい30分くらい、どことどこが話せるかを試している。
- 他にも、「オラファー・エリアソン」が作成した《カラー・アクティヴィテ  
ィ・ハウス》は、建物の中央に電気があつて、夜になるとその白い電気が光り、  
いろいろな角度で見ると、色が変わるようになっている。また、「フェルナン  
ド・ロメロ」《ラッピング》のような体験型の作品は、24時間楽しめるよう  
になっている。
- こういうゾーンがあつて、24時間開いているということも、この美術館の建  
物の特徴だと思う。

- 地域との連携について言うと、現在、300店舗のサポートショップと連携して活動している。例えば、美術館に来られる方が来館前に、このサポートショップであるコーヒーショップでコーヒーを飲んだ場合、これから美術館に行くことをお店の人に伝えれば、美術館の展覧会が団体割引になる特製のコースターを渡している。
- 逆に、最初に美術館に来られた場合、美術館の半券を示していただければ、連携している店舗の割引・商品のサービスがある。サポートショップになっているお店には、美術館のポスター、チラシも置かせていただいている。
- 連携しているお店には、提示すると無料で展覧会が鑑賞できるカードをお渡しする、という取組みもしている。
- その他、美術館の応援団ということで、維持会員(サスティンメンバー)制度も設けている。一口50,000円で、有効期限は1年間とし、会員の特典の一つとして一口につき、招待券を20枚程度お渡ししている。この美術館の特別展・企画展を年に3回ほど行っているので、延べ60枚のチケットを維持会員の方にお渡ししていることになる。このチケットは、職員の福利厚生等に使っているということも聞いている。
- 個人会員も「友の会」に、全国で2,000人ほどいる。その他、地元の施設の金沢市立美術工芸大学、卯辰山工芸工房に、染・陶芸などの作家を養成する施設があるが、それらの方々の卒業作品展を市民ギャラリーのAとBを使用して毎年行っている。
- 金沢市の小中学校とも連携して、美術・図画工作等で作った作品をギャラリーを使って展示するという取組みも毎年行っている。

以上の話を伺った後、質疑応答、意見交換が行われたので、以下に主なものを掲載する。

(質問) 今年の来館者数が220万人を越え、その中には、県外からの来館者、一番大事な市内からの来館者がいて、市内のリピーターからは、混んでいていやだと言われたり、逆の気遣いもあると思う。新幹線ブームとやり手の館長の腕で、230万人の来館者を達成された。この数字は、全国で2番目の来館者数だと思う。ここは、美術館だが、観光施設にもなりつつある、そこを気をつけないといけないと思う。特にここは、現代アートを展示しているので、展覧会の内容を見て来館するというわけでは必ずしもない。ほんとうに市民に愛される美術館であるということを忘れてはいけないと思う。この美術館は、地域貢献としてみれば、評価が高いと思う。これだけ来館者があると悩みもあると思うが。

(回答) 掃除等細かいところが追いつかないということがある。また、計画時にこれほどたくさんの来館者を想定できなかったのも、土日になると女性トイレが列をなすこともあり、非常にご迷惑をかけている。

(質問) 収益が増えているので、その分次の展開がしやすくなるということもあるが、何か考えられていることはあるか。

(回答) 新幹線の開通によりお客様も増えているので、これからは、地元と連携をとりながら、この美術館を中心に、著名な作家と地元の作家が連携して金沢を発信していくような事業ができないかと考えている。もともとそういう文化が盛んな土地である。

(質問) 地域における文化施設の生き方は、二つあると思う。世界的なところと連携し、企画等をしていくというやり方と、地域の風合いを生かすというやり方である。おそらくここは、両方をされていると思う。先ほど今後は、地域と連携して、作家等を輩出していきたいというお話があったが、この辺について、具体的にお伺いしたい。

(回答) 当館ではプロジェクト工房といったアーティスト・イン・レジデンスを行うことができる施設があるが、うまく活用されていなかった。それを活用していきたいと思っている。

その工房は、ベッド等を入れれば10人くらいは泊まれるので、宿泊・制作の補助等の支援をするなどして、地元の作家とコラボさせるなどして、上手に活用していきたい。

(質問) 施設管理は、直接行っているのか。支出規模としての8億1000万円というのは美術館の予算規模としては、日本・海外の美術館と比較するとどうか。

(回答) 金沢市から指定管理料をもらい指定管理者制度で運営している。

予算については、他のところと比較したことかないが、いろいろお話を伺うと地方の美術館としては、非常に多い。企画展で事業費が年間約1億円、施設管理費が約3.5億円、人件費が約2.4億円。建物がガラスバリなので、施設管理費のうちの1億1000万円が光熱費として支出される。人件費では、今職員が37人いるが、監視等の中にいる職員は委託している。指定管理は5年で、金沢市では、文化施設の運営については、市の出資の財団に行わせることになっている。